

令和 7 年度  
加工原料乳生産者補給金単価等  
算定要領及び参考資料

畜産局

令和 6 年 12 月

# 目次

算定要領	頁
[ 1 ] 加工原料乳生産者補給金単価――――	1
[ 2 ] 集送乳調整金単価――――	2
[ 3 ] 総交付対象数量――――	4
参考資料	
[ 1 ] 加工原料乳生産者補給金単価――――	7
[ 2 ] 集送乳調整金単価――――	10
[ 3 ] 総交付対象数量――――	13

## [1] 加工原料乳生産者補給金単価

### (考 え 方)

加工原料乳地域（生産される生乳の相当部分が加工原料乳であると認められる地域＝北海道）における生産費及び乳量の各々の変動率から求めた「生産コスト等変動率」を「前年度の補給金単価」に乗じて、「当該年度の補給金単価」を算定する。

### (算 式)

・当該年度の補給金単価＝前年度の補給金単価×生産コスト等変動率

・生産コスト等変動率

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0}$$

$C_1/C_0$ ：搾乳牛1頭当たり生産費の変動率

$Y_1/Y_0$ ：搾乳牛1頭当たり乳量の変動率

### (算定要領)

#### 1 前年度の補給金単価

令和6年度補給金単価：8.92 円/kg

#### 2 生産コスト等変動率

生産コスト等変動率については、搾乳牛1頭当たり生産費の変動率を、搾乳牛1頭当たり乳量の変動率で除することで算出する。

##### (1) 搾乳牛1頭当たり生産費の変動率

農林水産省統計部の「牛乳生産費調査」による搾乳牛1頭当たり全算入生産費について、

ア 飼養頭数規模別飼養頭数ウェイトによる加重平均

イ 副産物価額のうち子牛及び乳牛償却費にかかる廃用牛について、各年の値をその年を含む直近7年平均に置き換え

ウ 効率的に集送乳が行われる場合の集送乳経費、販売手数料及び企画管理労働費の加算を行い、以下により物価・労賃の動向等を織り込んで算出した生産費（修正生産費）の当年を含む過去3年の平均（令和3年～令和5年生産費の平均）を、前年を含む過去3年の平均（令和2年～令和4年生産費の平均）で除することで算出する。

(ア) 物財費等の各費目については、原則として、当年を含む過去3年の平均生産費を直近（令和6年8月～10月）に、前年を含む過去3年の平均生産費を1年前の同時期（令和5年8月～10月）の水準に物価修正して算出する。

- (イ) 家族労働費については、厚生労働省の「毎月勤労統計調査」の「北海道、製造業、5人以上」の労働費を基に、牛乳生産費統計の酪農家1人当たりの労働時間まで労働時間を加算等して算出した労賃単価により評価して算出する。
- (ウ) 地代及び資本利子については、当年を含む過去3年の平均生産費は直近年（令和5年）に、前年を含む過去3年の平均生産費は1年前（令和4年）の水準に評価して算出する。
- (エ) 企画管理労働費については、「牛乳生産費調査」に基づく企画管理労働時間に家族労働費と同額の労賃単価を乗じて算出する。

(2) 搾乳牛1頭当たり乳量の変動率

「牛乳生産費調査」による搾乳牛通年換算1頭当たり実搾乳量を飼養頭数規模別飼養頭数ウェイトにより加重平均し（修正乳量）、その当年を含む過去3年の平均（令和3年～令和5年乳量の平均）を、前年を含む過去3年の平均（令和2年～令和4年乳量の平均）で除することで算出する。

(試算)

令和7年度補給金単価

$$\begin{array}{rcccl} \text{令和6年度単価} & & \text{生産コスト等変動率} & & \\ 8.92 \text{ 円/kg} & \times & 1.0189 & = & 9.09 \text{ 円/kg} \end{array}$$

[2] 集送乳調整金単価

(考え方)

全国の指定事業者における加工原料乳の集送乳経費及び集送乳量の各々の変動率から求めた「集送乳コスト等変動率」を「前年度の調整金単価」に乗じて、「当該年度の調整金単価」を算定する。

(算式)

・当該年度の調整金単価＝前年度の調整金単価×集送乳コスト等変動率

・集送乳コスト等変動率

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0}$$

$C_1/C_0$  : 加工原料乳の集送乳経費の変動率

$Y_1/Y_0$  : 加工原料乳の集送乳量の変動率

(算定要領)

1 前年度の調整金単価

令和6年度調整金単価：2.68円/kg

2 集送乳コスト等変動率

集送乳コスト等変動率については、加工原料乳の集送乳経費の変動率を、加工原料乳の集送乳量の変動率で除することで算出する。

(1) 加工原料乳の集送乳経費の変動率

仕向け比率により推定した令和2年度から令和5年度における全国の加工原料乳の集送乳経費（クーラーステーション経費を含む。農林水産省畜産局牛乳乳製品課調べ）について、

ア 当年を含む過去3年（令和3年度～令和5年度）の平均集送乳経費を直近（令和6年8月～10月）に、前年を含む過去3年（令和2年度～令和4年度）を1年前の同時期（令和5年8月～10月）の水準に物価修正し（修正集送乳経費）、

イ 令和3年度～令和5年度の修正集送乳経費の平均を令和2年度～令和4年度の修正集送乳経費の平均で除することで算出する。

(2) 加工原料乳の集送乳量の変動率

仕向け比率により推定した令和2年度から令和5年度における全国の加工原料乳の集送乳量（農林水産省畜産局牛乳乳製品課調べ）について、当年を含む過去3年（令和3年度～令和5年度）の平均を、前年を含む過去3年（令和2年度～令和4年度）の平均で除することで算出する。

(試算)

令和7年度調整金単価

令和6年度単価

2.68円/kg

×

集送乳コスト等変動率

1.0196

=

2.73円/kg

### [3] 総交付対象数量

(考え方)

総交付対象数量は、乳製品向けに必要なとなる生乳供給量として、脱脂粉乳・バター一等、生クリーム等の液状乳製品及び国産ナチュラルチーズの消費量等から推定される推定乳製品向け生乳消費量から、カレントアクセス輸入量およびTPP11、日EU・EPA関税割当数量を控除して算定する。

(算式)

$$L = D3 - \text{カレントアクセス輸入量} - \text{TPP11、日EU・EPA関税割当数量}$$
$$D4 = Q - (D1 + D2 + L)$$

L : 総交付対象数量

Q : 推定生乳生産量

D1 : 推定自家消費等量

D2 : 推定牛乳等向け生乳消費量

D3 : 推定乳製品向け生乳消費量

D4 : 要調整数量

(算定要領)

1 推定生乳生産量

最近の経産牛頭数等の推移から推定される令和7年度の各月の経産牛頭数に、同年度の各月の推定一頭当たり乳量を乗じ、各月の推定生乳生産量を合算して算出する。

2 推定自家消費等量

最近の動向を考慮して算出する。

3 推定牛乳等向け生乳消費量

過去10年間の国民1人当たり実質民間最終消費支出及び飲料支出に占める牛乳類支出の割合を変数として推定される令和7年度の国民1人当たり牛乳等向け生乳消費量（学校給食用を除く）に同年度の推定総人口を乗じたものに、学校給食用生乳消費量として見込まれる数量を加えて算出する。

4 推定乳製品向け生乳消費量

過去10年間の国民1人当たり実質民間最終消費支出、バター、脱脂粉乳、生クリーム、濃縮乳、脱脂濃縮乳及び国産ナチュラルチーズ消費量を変数として推定される令和7年度の国民1人当たり乳製品向け生乳消費量に、同年度の推定総人口を乗じて算出する。

5 要調整数量

推定生乳必要量と推定生乳生産量の差であって、国産乳製品の需給均衡を図るための調整に必要な数量とする。

(算定結果)

(単位：万トン)

● 推定生乳生産量	Q	:	736
● 推定自家消費等量	D1	:	5
● 推定牛乳等向け生乳消費量	D2	:	388
● 推定乳製品向け生乳消費量	D3	:	346
● 要調整数量	D4	:	18
● 総交付対象数量	L	:	325

## 参考資料

### [1] 加工原料乳生産者補給金単価

#### 1 搾乳牛1頭当たり生産費の変動率の算定

$C_1$  (当年を含む過去3年の修正生産費)

令和3年修正生産費 938,749 円/頭

令和4年修正生産費 966,805 円/頭

令和5年修正生産費 968,153 円/頭

---

平均 957,902 円/頭

$C_0$  (前年を含む過去3年の修正生産費)

令和2年修正生産費 910,375 円/頭

令和3年修正生産費 917,500 円/頭

令和4年修正生産費 956,183 円/頭

---

平均 928,019 円/頭

$C_1/C_0$  (搾乳牛1頭当たり生産費の変動率)

$$\frac{957,902 \text{ 円/頭}}{928,019 \text{ 円/頭}} = 1.0322$$

#### 2 搾乳牛1頭当たり乳量の変動率の算定

$Y_1$  (当年を含む過去3年の修正乳量)

令和3年修正乳量 9,028 kg/頭

令和4年修正乳量 9,382 kg/頭

令和5年修正乳量 9,217 kg/頭

---

平均 9,209 kg/頭

$Y_0$  (前年を含む過去3年の修正乳量)

令和2年修正乳量 8,861 kg/頭

令和3年修正乳量 9,028 kg/頭

令和4年修正乳量 9,382 kg/頭

---

平均 9,090 kg/頭

$Y_1/Y_0$  (搾乳牛1頭当たり乳量の変動率)

$$\frac{9,209 \text{ kg/頭}}{9,090 \text{ kg/頭}} = 1.0131$$

### 3 生産コスト等変動率の算定

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0} \quad (\text{生産コスト等変動率})$$

$$\begin{array}{l} \text{搾乳牛1頭当たり生産費の変動率} \\ 1.0322 \end{array} \div \begin{array}{l} \text{搾乳牛1頭当たり乳量の変動率} \\ 1.0131 \end{array} = 1.0189$$

○算定基礎

C1

(単位:1頭当たり円)

推定生産費 区 分	R3年生産費		R4年生産費		R5年生産費	
		修正生産費		修正生産費		修正生産費
物財費	801,215	862,008	868,598	889,387	886,335	887,442
うち飼料費	412,219	515,214	471,593	522,162	503,447	514,537
うち乳牛償却費	199,022	135,913	185,928	145,426	159,295	142,216
飼育労働費	131,103	152,752	135,333	155,709	139,079	157,514
うち家族労働費	97,651	115,269	98,853	116,591	98,380	115,277
費用合計	932,318	1,014,760	1,003,931	1,045,096	1,025,414	1,044,956
副産物価額	173,945	133,135	170,761	133,148	158,409	131,212
生産費	758,373	881,625	833,170	911,948	867,005	913,744
地 代	21,669	22,870	20,505	20,461	19,832	19,832
資本利子	32,526	9,157	32,203	8,052	28,115	6,672
全算入生産費	812,568	913,652	885,878	940,461	914,952	940,247
集送乳経費		9,931		10,320		10,342
販売手数料		12,913		13,775		15,276
企画管理労働費		2,253		2,249		2,288
試算値		938,749		966,805		968,153

C0

(単位:1頭当たり円)

推定生産費 区 分	R2年生産費		R3年生産費		R4年生産費	
		修正生産費		修正生産費		修正生産費
物財費	759,778	855,776	801,215	868,489	868,598	896,267
うち飼料費	375,947	484,688	412,219	510,344	471,593	516,924
うち乳牛償却費	205,570	172,632	199,022	152,225	185,928	162,927
飼育労働費	130,595	142,926	131,103	149,929	135,333	152,641
うち家族労働費	102,037	112,203	97,651	113,670	98,853	114,800
費用合計	890,373	998,702	932,318	1,018,418	1,003,931	1,048,908
副産物価額	160,569	144,178	173,945	157,074	170,761	147,132
生産費	729,804	854,524	758,373	861,344	833,170	901,776
地 代	21,829	21,516	21,669	21,854	20,505	20,505
資本利子	29,945	9,455	32,526	9,037	32,203	7,842
全算入生産費	781,578	885,495	812,568	892,235	885,878	930,122
集送乳経費		9,454		10,130		10,423
販売手数料		13,050		12,913		13,419
企画管理労働費		2,376		2,222		2,219
試算値		910,375		917,500		956,183

Y1

(単位:1頭当たりキログラム)

	R3年 乳 量	R4年 乳 量	R5年 乳 量
修正乳量	9,028	9,382	9,217

Y0

(単位:1頭当たりキログラム)

	R2年 乳 量	R3年 乳 量	R4年 乳 量
修正乳量	8,861	9,028	9,382

[2] 集送乳調整金単価

1 加工原料乳の集送乳経費の変動率の算定

C<sub>1</sub> (当年を含む過去3年の修正集送乳経費)

令和3年度修正集送乳経費	12,509,727	千円
令和4年度修正集送乳経費	12,200,239	千円
令和5年度修正集送乳経費	11,475,819	千円
平 均	12,061,928	千円

C<sub>0</sub> (前年を含む過去3年の修正集送乳経費)

令和2年度修正集送乳経費	11,204,792	千円
令和3年度修正集送乳経費	12,165,171	千円
令和4年度修正集送乳経費	11,884,041	千円
平 均	11,751,335	千円

C<sub>1</sub>/C<sub>0</sub> (加工原料乳の集送乳経費の変動率)

$$\frac{12,061,928 \text{ 千円}}{11,751,335 \text{ 千円}} = 1.0264$$

2 加工原料乳の集送乳量の変動率の算定

Y<sub>1</sub> (当年を含む過去3年の集送乳量)

令和3年度集送乳量	3,528,147	トン
令和4年度集送乳量	3,468,758	トン
令和5年度集送乳量	3,353,493	トン
平 均	3,450,133	トン

Y<sub>0</sub> (前年を含む過去3年の集送乳量)

令和2年度集送乳量	3,284,822	トン
令和3年度集送乳量	3,528,147	トン
令和4年度集送乳量	3,468,758	トン
平 均	3,427,242	トン

Y<sub>1</sub>/Y<sub>0</sub> (加工原料乳の集送乳量の変動率)

$$\frac{3,450,133 \text{ トン}}{3,427,242 \text{ トン}} = 1.0067$$

### 3 集送乳コスト等変動率の算定

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0} \quad (\text{集送乳コスト等変動率})$$

$$\begin{array}{l} \text{加工原料乳の集送乳経費の変動率} \\ 1.0264 \end{array} \div \begin{array}{l} \text{加工原料乳の集送乳量の変動率} \\ 1.0067 \end{array} = 1.0196$$

○算定基礎

C1

(単位：千円)

推定集送乳経費 区 分	R3年度集送乳経費		R4年度集送乳経費		R5年度集送乳経費	
		修正集送乳経費		修正集送乳経費		修正集送乳経費
集送乳委託費	9,456,543	9,940,061	9,471,294	9,840,118	9,276,435	9,498,209
単独集送乳経費	803,790	880,932	791,774	835,168	790,095	811,397
うち労務費	385,755	430,426	374,881	398,349	359,937	370,375
うち燃料費	125,429	134,171	125,113	129,580	134,143	138,932
CS経費	264,935	299,845	286,205	292,546	266,149	272,334
うち運営費	188,008	215,701	216,604	219,309	220,200	224,780
うち設備費	76,927	84,144	69,601	73,237	45,949	47,554
CS委託費	1,222,937	1,388,889	1,208,242	1,232,407	872,929	893,880
試算値		12,509,727		12,200,239		11,475,819

C0

(単位：千円)

推定集送乳経費 区 分	R2年度集送乳経費		R3年度集送乳経費		R4年度集送乳経費	
		修正集送乳経費		修正集送乳経費		修正集送乳経費
集送乳委託費	8,510,078	8,790,818	9,456,543	9,686,528	9,471,294	9,583,974
単独集送乳経費	718,983	809,789	803,790	860,737	791,774	817,550
うち労務費	363,322	404,378	385,755	417,542	374,881	386,427
うち燃料費	100,360	137,805	125,429	137,483	125,113	132,770
CS経費	237,514	266,392	264,935	287,718	286,205	284,546
うち運営費	174,768	199,624	188,008	206,424	216,604	213,250
うち設備費	62,746	66,767	76,927	81,294	69,601	71,295
CS委託費	1,189,466	1,337,792	1,222,937	1,330,188	1,208,242	1,197,972
試算値		11,204,792		12,165,171		11,884,041

Y1

(単位：ト)

	R3年度 集送乳量	R4年度 集送乳量	R5年度 集送乳量
集送乳量	3,528,147	3,468,758	3,353,493

Y0

(単位：ト)

	R2年度 集送乳量	R3年度 集送乳量	R4年度 集送乳量
集送乳量	3,284,822	3,528,147	3,468,758

[3] 総交付対象数量

○ 算定基礎

1 推定生乳生産量

年月	①24か月前 出生雌の 残存頭数	②繰り越し 経産牛頭数	③月初め 経産牛頭数 ③=①+②	④月間経産 牛減耗率	⑤経産牛頭数 ⑤=③×(1-④)	⑥経産牛1頭 当たり月間乳 量	⑦生乳生産量 ⑦=⑤×⑥	備 考
	頭	頭	頭		頭	kg	トン	
R6.1	19,221	824,700	843,921	0.023	826,700	750.7	620,575	
2	18,587	826,700	845,287	0.022	826,300	718.9	594,058	
3	17,628	826,300	843,928	0.022	825,741	771.7	650,509	
4	18,128	825,741	843,869	0.020	826,780	756.5	635,017	
5	18,590	826,780	845,371	0.018	830,426	781.0	655,623	
6	18,966	830,426	849,392	0.020	832,279	744.1	616,308	
7	19,530	832,279	851,809	0.022	833,423	725.8	606,475	
8	20,351	833,423	853,774	0.024	833,674	694.8	591,976	
9	20,659	833,674	854,333	0.025	832,983	678.3	579,317	
10	20,419	832,983	853,403	0.027	830,499	710.8	590,310	
11	19,975	830,499	850,473	0.027	827,874	692.3	573,169	
12	19,376	827,874	847,251	0.026	825,645	744.9	615,037	
R7.1	19,257	825,645	844,902	0.023	825,431	757.1	624,948	
2	19,175	825,431	844,607	0.023	825,267	725.1	598,415	
3	18,983	825,267	844,250	0.022	826,056	778.3	642,905	
4	18,367	826,056	844,423	0.020	827,323	763.0	631,228	
5	19,257	827,323	846,580	0.018	831,614	787.8	655,112	
6	19,872	831,614	851,486	0.020	834,331	750.5	626,203	
7	20,317	834,331	854,648	0.022	836,200	732.1	612,147	
8	20,693	836,200	856,893	0.024	836,720	700.8	586,391	
9	20,539	836,720	857,259	0.025	835,836	684.1	571,836	
10	19,992	835,836	855,828	0.027	832,859	716.9	597,076	
11	19,393	832,859	852,252	0.027	829,606	698.3	579,304	
12	18,555	829,606	848,161	0.026	826,533	751.3	620,990	
R8.1	18,367	826,533	844,900	0.023	825,430	763.6	630,318	
2	18,213	825,430	843,643	0.023	824,325	731.3	602,869	
3	17,900	824,325	842,225	0.022	824,075	785.0	646,875	
							R7年度計 736万トン	

(1) 24か月前出生雌残存頭数は、近年の残存率の動向と、各月の出生頭数の変動を考慮して推計した。

(2) 月間経産牛減耗率は、近年の減耗率の動向と、各月の変動を考慮して推計した。

(3) 経産牛1頭当たり月間乳量は、近年の経産牛1頭当たり年間乳量の動向と、各月の変動を考慮して推計した。

2 推定自家消費等量 D1

最近の動向を考慮して、5万トンとする。

3 推定牛乳等向け生乳消費量 D2

$$\begin{aligned} D2 &= D2A + D2B \\ &= 353(352\sim 355) \text{ 万トン} + 35 \text{ 万トン} \\ &= 388(387\sim 389) \text{ 万トン} \end{aligned}$$

D2A : 推定牛乳等向け生乳消費量 (学校給食用を除く)

$$\begin{aligned} D2A &= d2 \times N \\ &= 28.57(28.47\sim 28.66) \text{ kg/人} \times 123,713 \text{ 千人} \\ &= 353(352\sim 355) \text{ 万トン} \end{aligned}$$

d2 : 推定国民1人当たり牛乳等向け生乳消費量 (学校給食用を除く) を、民間最終消費支出及び飲料支出に占める牛乳類支出割合から、回帰分析により算出。

(データ参照期間 : 平成30年9月を除く平成27年度～令和6年度)

N : 推定総人口 (国立社会保障・人口問題研究所)

D2B : 学校給食用生乳消費量

最近の動向を考慮して、35万トンとする。

4 推定乳製品向け生乳消費量 D3

$$\begin{aligned} D3 &= d3 \times N \\ &= 27.98 \text{ kg/人} \times 123,713 \text{ 千人} \\ &= 346 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

d3 : 推定国民1人当たり乳製品消費量（カレントアクセス輸入量およびTPP11、日EU・EPA関税割当数量を含む）を、民間最終消費支出、脱脂粉乳消費量、バター消費量、液状乳製品消費量及び国産ナチュラルチーズ消費量から、回帰分析により算出。

（データ参照期間：平成30年9月を除く平成27年度～令和6年度）

5 総交付対象数量 L

$$\begin{aligned} L &= D3 - \text{カレントアクセス輸入量} \\ &\quad - \text{TPP11、日EU・EPA関税割当数量（※令和6年度の関税割当枠の消化状況を考慮した令和7年度の推定消化数量）} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= 346 \text{ 万トン} - 14 \text{ 万トン} - 8 \text{ 万トン} \\ &= 325 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

6 要調整数量 D4

$$\begin{aligned} D4 &= Q - (D1 + D2 + L) \\ &= 736 \text{ 万トン} - (5 \text{ 万トン} + 388 \text{ 万トン} + 325 \text{ 万トン}) \\ &= 18 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

（小数点以下の関係で合計値等は一致しない場合がある）

(参考)

## 生乳需給表

(単位：万トン、%)

	期首在庫 (バター・脱脂粉乳)	生産		輸入	供給計	需要	期末在庫 (バター・脱脂粉乳)
			対前年比				
令和5年度							
(1) 自家消費		5			5	5	
(2) 牛乳等		390			390	390	
(3) 乳製品	77	338		428	843	782	61
合計	77	732		428	1,238	1,177	61
令和6年度見込							
(1) 自家消費		5	0.3		5	5	0.3
(2) 牛乳等		388	▲ 0.6		388	388	▲ 0.6
(3) 乳製品	61	341	0.8	440	842	781	▲ 0.2
合計	61	733	0.1	440	1,234	1,173	▲ 0.3
令和7年度推定							
(1) 自家消費		5	▲ 3.3		5	5	▲ 3.3
(2) 牛乳等		(387~389)					
		388	0.2		388	388	0.2
(3) 乳製品	61	325		440	826	765	▲ 2.0
合計(生乳必要量)	61	718		440	1,219	1,158	▲ 1.3
生乳生産量		(734~738)					
		736	0.4				
要調整数量		18					

注1 要調整数量：推定生乳必要量と推定生乳生産量の差であって、国産乳製品の需給均衡を図るための調整に必要な数量

注2 ( ) 内は推計値の上限と下限

注3 小数点以下の関係で合計値は一致しない場合がある